平成１７年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ５７ ※記入不要	提案機関名	湘南地域農業改良普及センター

要望問題

いちごの育苗におけるさがみ粒土代替培土の検討

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

近年、さがみ粒土の精製方法が変わり、物理的・化学的に従来の「さがみ粒土」とは別のものとなってきており、使用方法も従来の単独使用には無理があり、購入培土との混用などが試験されている。

購入培土を利用する場合には、経済性を考慮してミニポットによる育苗を検討する必要があることから培土・ポットの組合せを含めた育苗システムの検討が求められている。

灌水方法については、底面灌水はまだ少数であり、上面からの慣行法による検討をお願いいたします。

また「新さがみ粒土」については、現地における実用化試験を希望します。

ＪＡ湘南いちご部会　３１名　３３７ａ

解決希望年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
研究対応区分	①研究所対応　②委託研究　③共同研究　④その他
対応を希望する研究機関名	①農業総合研究所（ ②根府川試験場　③三浦試験場　④津久井試験場 ） ⑤畜産研究所　⑥水産総合研究所（ ⑦内水面試験場　⑧相模湾試験場 ） ⑨自然環境保全センター

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	農業総合研究所
部　　署：	生産技術部
対応区分	①実施　②実施中　③継続検討　④実施済　⑤調査指導対応　⑥現地対応　⑦実施不可

試験研究課題名　（①、②、④の場合）

野菜のセル成型苗等育苗の安定生産技術の開発

対応の内容等

平成 15 年度の試験では、9cm ポットに各種の市販培土「ｸﾘｰﾝ培土、笠原工業ｲﾁｺﾞ培土、ニッテンネギ培土、げんきくん、野田ｲﾁｺﾞ培土、もみ殻（＋ｽｰﾊﾟｰﾐｯｸｽ、与作、らくさく１号）」を用い、さがみ粒土と比較しました。もみ殻を利用した培土は、撥水性が高く活着率が低かったが、ｲﾁｺﾞ専用培土やその他の市販培土はよい生育を示しました。

また、相模原、伊勢原浄水場のさがみ粒土、綾瀬浄水場の新さがみ粒土を用い、粒土単独と与作を３：１の割合で混合した培土でとちおとめの育苗を行い比較しました。与作等の園芸資材を混合することにより、従来のさがみ粒土とほぼ同じ育苗が可能となりました。

今後、現地に新さがみ粒土を導入するに当たっては、現地の育苗調査に協力するとともに技術的な協力を行います。

また、培土量の少ない育苗法については上記課題のなかで検討したいと思います。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	